

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ののほな		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員や保育士に加え、作業療法士・言語聴覚士・看護師・リトミック講師・SSTスキルを持った職員などの専門職が在籍し、子どもの発達や特性に応じた支援を行っています。	専門職が関わることで、個々の子どもに応じた多角的なアプローチが可能となり、より効果的な支援を行っています。	保護者向けの相談会や勉強会を開催し、家庭と連携した支援を強化することで、子どもたちの成長をより広い視点で支えていくことを目指します。
2	保護者の方々と密接に連携しながら、子どもたちの成長や日々の活動の様子を共有することを大切にしています。そのため、【提供記録の充実】に努め、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。	写真を活用した情報共有 活動の様子を文章だけでなく【写真】で記録し、保護者向けの【オンライン共有ツール】にて提供することで、視覚的に子どもの成長を伝える工夫をしています。	提供記録の内容にバラつきがあるため、各職員が同じレベルで支援の様子をフィードバックできるようになる。
3	専用システムやスプレッドシートを活用し職員間の円滑な情報共有を行い、子どもたちに一貫性のある支援を提供している。	定期的な会議の実施 週1回の全体ミーティングを実施し、各職員が子ども一人ひとりの状況や支援方針を共有することで、チーム全体での支援の統一を図っています	法人内の他事業所の取り組みも共有し、良い取り組みを積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会がない。	保護者からも職員からも「必要ではない、実現は難しい」との声がある。	地域とのつながりを持つことは、子どもたちの社会性や協調性を育む上で重要であると考えており、今後は地域の公園や施設を活用した活動を積極的に企画し、地域の子どもたちと自然に関わる場を提供できるよう努めます。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っていない。	事業所の立地や時間の捻出が要因に挙げられる。また一般開放するには児童の安全確保等も課題となる。	活動時間が長い長期休み期間に実施し、まずは関係機関の方や顔の知れた近所の方を招待することを検討中
3			